TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

神さまは愛です　兄弟姉妹を愛しなさい

ヨハネの手紙第一 3 章 11 節～24 節

2026 年 2 月 14 日 & 15 日
余沢　武　牧師

I. 序論

ごあいさつ。今日はヨハネの手紙一の学びを続けます。私たちは、福音を受け入れ、自分の罪を認め続け、赦しと助けを求め、それを受け取るなら、父と御子との親密で相互的な関係にとどまることを学んできました。これが永遠のいのちです。

そして、私たちの内に神さまの種が与えられるので、罪を続けること、罪のライフスタイルに生きることはできません。神さまの道徳的基準と御言葉に従いたいと強く願うようになります。この内なる性質によって、自分たちが神さまの子どもであることが分かります。今日は、その結果について見ていきます。まず祈りましょう。

II. 兄弟姉妹を愛しなさい

(1)世はあなたがたを憎む

ヨハネの手紙一　3 章 11 節から 12 節

「[11] なぜなら、互いに愛し合うこと、これがあなたがたが初めから聞いている教えだからです。[12] カインのようになってはなりません。彼は悪い者から出て、兄弟を殺しました。なぜ殺したのか。自分の行いが悪く、兄弟の行いが正しかったからです。」

神さまの子どもには神さまの種、神さまの性質が内にあるので、正しいことを行いたいと望みます。それは、互いに愛し合うということ、特に教会にいるキリストにある兄弟姉妹を愛するという意味です。
ここで注目してください。

神さまの子どもなら、世の人々を愛し、多くの慈善活動に参加すべきだと言っているのではありません。もちろん他の人々を愛する必要はありますし、慈善活動に関わることもあるでしょう。しかし、ここで彼の言いたいのはそれではありません。

また、教会の兄弟姉妹を愛すればクリスチャンになれるとか、より成熟したクリスチャンになれると言っているのでもありません。

彼が言っているのはこうです。罪を認め、赦しと助けを求めて受け取るなら、父と御子との親密な関係にとどまります。その結果、御言葉に従い、神さまのご性質を身に帯び、神さまの愛で互いに愛するようになるのです。

ですから、私たちの関係はカインとアベルのようであってはなりません。彼らは、アダムとエバの最初の二人の息子でした。旧約聖書が語るように、二人とも神さまを礼拝し、神さまにささげ物をしていました。しかし神さまはアベルだけを喜ばれ、カインは喜ばれませんでした。神さまはカインの心を見て警告されました。それでもカインは罪を認める代わりに怒り、正しいアベルを殺しました。

ヨハネの手紙一　3 章 13 節から 14 節

「[13] きょうだいたち、世があなたがたを憎んでも、驚いてはなりません。[14] 私たちは、自分が死から命へと移ったことを知っています。きょうだいを愛しているからです。愛することのない者は、死の内にとどまっています。」

偉大な伝道者ビリー・グラハムが、有名な無神論者とゴルフをしたという話を読んだことがあります。ゴルフの試合後、その無神論者はビリー・グラハムに対して非常に腹を立てていました。そこにいた人に「ビリー・グラハムはあなたに何を言ったのですか？」と尋ねられると、「何もない。彼は何も言っていない。」と答えました。ただ、神さまを信じる義なる人の存在に耐えられなかったのです。彼は怒っていました。

神さまと聖書を信じること、聖書の道徳基準を信じること、うわさ話をしないこと、酔わないこと、偶像を礼拝しないことなどのゆえに、私たちを不快に思う人もいるのです。

ヨハネは「驚いてはいけません」と言います。それが世の性質です。むしろ驚くべきことは、私たちがクリスチャンの兄弟姉妹を愛している姿を見ることです。特に、自分を傷つける人を愛している姿を見ることです。なぜなら、そのとき「私たちが死からいのちへと移ったことが分かる」からです。その時、私たちのうちには神さまの種があるのです。

ヨハネの手紙一　3 章 15 節

「[15] きょうだいを憎む者は皆、人殺しです。人殺しは皆、その内に永遠の命をとどめていないことを、あなたがたは知っています。」

ここでヨハネは次の御言葉でのイエスの言葉について思い起こさせてくれています。

マタイによる福音書 5章21節から22節
「[21]あなたがたも聞いているとおり、昔の人は、『殺すな。人を殺した者は裁きを受ける』と命じられている。[22]しかし、私は言っておく。きょうだいに腹を立てる者は誰でも裁きを受ける。きょうだいに『馬鹿』と言う者は、最高法院に引き渡され、『愚か者』と言う者は、ゲヘナの火に投げ込まれる。」

イエスによれば、兄弟姉妹に対して怒り、侮辱し、憎む者は、殺人者と変わりません。なぜなら、相手と関わりを持ちたくないと願ったり、相手がいなくなればよいと願ったりする思いです。ヨハネは、それは「悪魔の性質」だと言います。

つまりカインが殺人者だったのは、実際に殺したからだけでなく、「悪魔の性質」から来る怒りと憎しみを受け入れ、兄弟がいなくなることを願ったからです。私たちも兄弟姉妹に対して怒りや憎しみを抱くとき、それは悪魔の側に立ってしまうということなのです。

ここに注目してください。カインは問題を取り違えました。兄弟が問題だと思いましたが、本当の問題は自分の「怒り」でした。「兄弟」を取り除くのではなく、罪を認め、神さまに赦しと助けを求めることで「怒り」を取り除くべきだったのです

(2)イエスは愛される
ヨハネの手紙一 3章16節から17節
「[16]御子は私たちのために命を捨ててくださいました。それによって、私たちは愛を知りました。だから、私たちもきょうだいのために命を捨てるべきです。[17]世の富を持ちながら、きょうだいが貧しく困っているのを見て憐れみの心を閉ざす者があれば、どうして神の愛がその人の内にとどまるでしょう。」

「悪魔の性質」が怒りや憎しみや殺意で人に報いることであるなら、「イエスのご性質」は正反対です。ご自分の最も尊いもの、「いのちをささげて」まで自分を傷つける人を助けることです。それが「愛」であり、「父と御子の性質」です。

ヨハネは、もし神さまのご性質である愛が私たちの内にあるなら、同じように行うはずだと言っています。兄弟姉妹に傷つけられても、その兄弟姉妹を助けるために最も大切なもの、「いのちを差し出す」覚悟を持つべきなのです。

感謝なことに私たちは互いに深く傷つけ合うことはめったになく、互いのためにいのちを差し出さなければならないこともほとんどありません。

ヨハネはこう言います。もし神さまのご性質が私たちの内にあるなら、兄弟姉妹の必要を見たとき、自分の「持っているものの一部」を分け与えて助けるだけの思いやりがあるべきではないでしょうか。
そして、このようにして「私たちが兄弟姉妹を愛することで、死からいのちへと移ったことが分かる」のです。

この以下の点こそが「救い」が導くべき姿であり、「イエスを知ること」や「イエスとの親密な関係にとどまること」がもたらすべき結果であり、「私たちの内にある神さまの種」が生み出すはずの実です。

周りを見渡したとき、愛し、気にかけ、助けている兄弟姉妹がいる。
それは、ただ励ますために声をかけることかもしれません。―ですから教会に来るということが大切なのです。
自分の時間や労力、お金を用いて必要に応えることかもしれません。
また、奉仕や建築プロジェクトのためにささげることで、教会の必要に応えることかもしれません。

ヨハネの手紙一 3章18節
「子たちよ、言葉や口先だけではなく、行いと真実をもって愛そうではありませんか。」

「真実をもって」とは、それが単に「表面的なもの」や「見せかけ」ではないという意味です。
それは、自分の罪を認め、赦しと助けを求めることから生まれ、父と御子との「親密な関係」から生まれ、そして私たちの内にある「神さまの種、ご性質」から生まれる愛なのです。

ヨハネの手紙一 3章19節から20節
「[19]これによって、私たちは真理から出た者であることを知り、神の前に心を安らかにされるのです。[20]たとえ心に責められることがあろうとも、神は、私たちの心よりも大きく、すべてをご存じだからです。」

心を吟味するとき、責められるように感じることがあります。
なぜなら、ある兄弟姉妹に対する私たちの愛が、神さまの基準にはるかに及んでいないことを知っているからです。

でもヨハネはこう言っています。「神は、私たちの心よりも大きく、すべてをご存じだからです。」へりくだって助けを求めれば、与えてくださいます。

神さまは私たちの強さも弱さもご存じです。神さまに従いたいという「誠実な心」があるかどうかも、それが「神さまの種」から来ているものかどうかも、ご存じです。ですから、ただへりくだって助けを求めてください。神さまは喜んでそれを与えてくださる準備ができています。

(3)結論

ヨハネの手紙一 3章 21節から 24節

「[21] 愛する人たち、心に責められることがなければ、私たちは神の前で確信を持つことができます。[22] 願うものは何でも、神からいただくことができます。私たちが神の戒めを守り、御心に適うことを行っているからです。[23] 神の御子イエス・キリストの名を信じ、この方が私たちに命じられたように、互いに愛し合うこと、これが神の戒めです。[24] 神の戒めを守る人は、神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってくださいます。神が私たちの内にとどまってくださることは、神が私たちに与えてくださった霊によって分かります。」

「心に責められることがなければ」と彼が言うのは、神さまに従いたいと願い、兄弟姉妹を愛そうと努めたいという気持ちがあるという意味です。
「願うものは何でも、神からいただくことができます」とあるのは、二つの条件が満たされるときです。
「神さまの命令を守ること」と、「神さまの御前に喜ばれることを行うこと」が私たちの人生そのものであるときです。

そして神さまの命令は、簡潔に2つにまとめられます。
「御子イエス・キリストの御名を信じること」――復活された主イエスを自分の主として全面的に信頼し、従うこと。
「互いに愛し合うこと」――兄弟姉妹を愛し続け、赦し、気にかけ続けること。

日々のクワイエットタイム/QT(神様と過ごす聖書と祈りの時)で、聖書を読むとき以下の点を求めて読みます。
よみがえられた私たちの主イエスに信頼し従うこと。
イエスの戒めを心にとめる。- 特に教会の兄弟姉妹に対して愛し、赦し、気にかけること。
神さまに喜ばれることを行うこと。

私たちが祈るとき、神さまはすべての祈りに応えてくださいます。神さまは、私たちが真に願っている通り、私たちの祈りの願いを神さまに喜ばれるものへと整えてくださいます。そして神さまが私たちの祈りを聞いておられ、そしていつも最善の答えを与えてくださることを、私たちは確信することができます。

その結果により、私たちの人生は変えられます。私たちだけではなく、私たちの子どもたちや両親の人生も変えられます。そして何よりも兄弟姉妹―不快な人への愛し方さえも完全に変えられます。私たちの生き方を通して、人々は私たちが「神さまの子ども」であることを知るのです。

しかし覚えておいてください。すべては、自分の罪を認め、赦しと助けを求め、聖霊の助けによって父と御子との親密な関係に入ることから始まるのです。
まだそうしていない方は、今日イエスを受け入れ、神さまの子どもとなるようお勧めします。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

スモールグループ参加申込み

http://t-b-c.us/sgsu

オンライン献金

http://t-b-c.us/give

SG レッスンの PDF

https://gotbc.org/sg0726jp

TBC カレンダー
（TBC のスケジュールが確認できます）
https://tokyobaptist.org/calendar

★クラス 101
教会員になるためのクラス
2月22日(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: どなたでも

★クラス 402
キリストの伝え方
3 月 1 日(日)1:00pm – 4:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: クラス 101 まで修了した TBCメンバーの方

全クラス申し込み: https://t-b-c.us/classes

奉仕者募集中！

急募！

1.日本語訳レイアウト&印刷

（女性 2 名募集）

英語のスキルは必要ありません。

・月 1 回、土曜日 16 時に TBC にて作業します。
今見ているこの紙を作成&印刷してもらいます。
ひな形があるので翻訳された原稿をコピーして貼り付け整え、印刷するだけの簡単な作業です。

*スキル：MS Word の操作ができる方。
*TBC の教会員であることが必須です。

2.礼拝メッセージ翻訳

・1 か月半～2か月に 1 度、自宅でできます。スケジュールは都合に合わせて選べます。
英語と日本語が出来る方

連絡先：hiromik@tokyobaptist.org